

令和3年度実施施策に係る事前分析表

(文R3-12-1)

施策名	文化芸術の創造・発展・継承と教育の充実				部局名	文化庁政策課		作成責任者	日向 信和		
施策の概要	文化芸術の創造・発展、次世代への継承を確実に行之、全ての人々に充実した文化芸術教育と文化芸術活動の参加機会を提供する。							政策評価実施予定時期	令和5年度以降に実施		
施策の予算額(当初予算) (千円)	令和2年度		令和3年度		施策に関する内閣の重要施策(主なもの)		「文化芸術推進基本計画(第1期)」(平成30年3月6日閣議決定)				
	69,553,635		69,822,433								
達成目標1	子供たちに、芸術文化・伝統文化・暮らしの文化等を体験する機会を提供することにより、その子供たちが、創造性や発想力、コミュニケーション力を身に付けるとともに、伝統文化を体験・修得する。					目標設定の考え方・根拠	「文化芸術推進基本計画(第1期)」(平成30年3月6日閣議決定)の「第2 今後の文化芸術政策の目指すべき姿」にある「目標1 文化芸術の創造・発展・継承と教育」を踏まえ設定。				
測定指標	基準値	実績値					目標値	測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠			
	H28年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	毎年度	【測定指標の設定理由及び目標値の設定根拠】 子供たちが創造性、発想力、コミュニケーション力等を獲得できたかどうかを測るものとして、事業内で行っているアンケートから本項目を抜粋。(分母：事業実施学校数、分子：「豊かな心や感性、創造性を育むことができた」と回答した学校数) 出典：文化芸術による子供育成総合事業に関する調査研究			
①子供達が優れた舞台芸術を鑑賞・体験することにより「豊かな心や感性、創造性を育むことができた」と回答した開催校の割合	89.3%	89.3%	86.5%	86.4%	86.6%	89.8%	90%				
年度ごとの目標値	90%	90%	90%	90%	90%	90%					
測定指標	基準値	実績値					目標値	測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠			
	H28年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	毎年度	【測定指標の設定理由及び目標値の設定根拠】 教室に参加した児童・生徒及び保護者の多くの意識が肯定的に変化したかを測るものとして、項目を設定。 出典：伝統文化親子教室 子供たちの意識・行動に関する調査			
②伝統文化親子教室(教室実施型)参加者への意識調査のうち、子供が教室終了後も伝統文化等に関わりたいと考える割合	82%	82%	83%	81%	84%	86%	90%				
年度ごとの目標値	90%	90%	90%	90%	90%	90%					

測定指標	基準値	実績値					目標値	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	H28年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	毎年度	
③伝統文化親子教室(教室実施型)参加者への意識調査のうち、保護者が教室終了後も伝統文化等に子供を関わらせたいと考える割合	87%	87%	90%	87%	88%	89%	90%	<p>【測定指標の設定理由及び目標値の設定根拠】</p> <p>教室に参加した児童・生徒及び保護者の多くの意識が肯定的に変化したかを測るものとして、項目を設定。</p> <p>出典：伝統文化親子教室 子供たちの意識・行動に関する調査</p>
	年度ごとの目標値	90%	90%	90%	90%	90%		
達成手段 (開始年度)		関連する 指標		行政事業レビュー 番号		備考		
伝統文化親子教室事業 (平成26年度)		①②③		0383		—		
昨年度事前分析表からの変更点								

達成目標2	我が国の芸術家や芸術団体による、優れた芸術文化活動を推進することを通じ、全ての人が文化芸術に触れられるようにする。						目標設定の 考え方・根拠	「文化芸術推進基本計画（第1期）」の「第2 今後の文化芸術政策の目指すべき姿」にある「目標1 文化芸術の創造・発展・継承と教育」を踏まえ設定。
測定指標	基準値	実績値					目標値	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	H21年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R4年度	
①日本の誇りとして「文化・芸術」を挙げる国民の割合	44.9%	51.1%	47.1%	49.6%	47.6%	53.3%	60%	「文化芸術推進基本計画（第1期）」において、進捗状況を把握するための指標として規定されている。なお、「文化芸術の振興に関する基本的な方針（第4次方針）」では、「約6割の国民が日本の誇りとして「文化・芸術」を挙げることを目指す」とされていたことも踏まえ本目標値を設定。（分母：全国18歳以上の日本国籍を有する者（平成28年2月調査までは20歳以上の者を対象として実施）、分子：日本の国や国民について、誇りに思うことはどんなことか聞いたところ、「すぐれた文化や芸術」を挙げた者の数） 出典：社会意識に関する世論調査
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—		
測定指標	基準値	実績値					目標値	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	H21年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R4年度	
②国民の鑑賞、鑑賞以外の文化芸術活動へのそれぞれの参加割合	—	—	—	—	鑑賞：67.3 〃外：21.7	鑑賞：41.8 〃外：14.2	鑑賞 80% 〃外 40%	「文化芸術推進基本計画（第1期）」において、進捗状況を把握するための指標として規定されている。 分母：全国18歳以上の日本国籍を有する者（平成28年2月調査までは20歳以上の者を対象として実施） 分子：①この1年間に、コンサートや美術展、映画、歴史的な文化財の鑑賞、アートや音楽のフェスティバル等の文化芸術イベントを直接鑑賞したことがあると回答した者 ②この1年間に、鑑賞ではなく、自分で文化芸術活動を実践（創作や出演、習い事、祭や体験活動への参加など）したり、ボランティアとして活動を支援したことがあると回答した者 目標値については、「日本再興戦略2016」をもとに設定 出典：文化に関する世論調査報告書
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—		

測定指標	基準値	実績値					目標値	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	－	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	毎年度	
③新進芸術家海外研修制度により研修した者で、国内外で活躍している者の輩出	－	<ul style="list-style-type: none"> ・赤岩やえ（メディアアート、H29年度研修生、R2 芸術選奨美術部門新人賞） ・猪股あき（現代アート、H29年度研修生、H30 Asian Art Award 特別賞） ・慶野優太郎（映画演出、H30年度研修生、山形ドキュメンタリー映画祭「アジア千波万波」部門選出） ・木口雄人（音楽：ピアノ、R1年度研修生、R2 ヨハネス・ブラームス国際コンクール最優秀伴奏者賞） ・奥田ななみ（音楽：ピアノ、R2年度研修生、R2 アルベール・ルーセル国際ピアノコンクール第1位） ・大崎由貴（音楽：ピアノ、R2年度研修生、R2 第18回東京音楽コンクールピアノ部門第2位） ・淵山準平（舞踊：バレエ、R2年度研修生、R2 第49回ローザンヌ国際バレエコンクール第5位） ※各分野において国際コンクールや表彰実績等から選定					新進芸術家海外研修制度の研修終了者の中から、国内外の著名なコンクールや賞の受賞者を輩出する。	「文化芸術推進基本計画（第1期）」の「第2 今後の文化芸術政策の目指すべき姿」において、芸術家等文化芸術を担う者が能力を発揮し、その功績が社会から評価され、一層尊敬、尊重されることで更なる文化芸術の発展へとつながるような、持続可能性のある社会を築くことが必要であると定められているため。 出典：文化庁調べ
	年度ごとの目標値							
測定指標	基準値	実績値					目標値	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	－	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
④アート市場規模の拡大 【新経済・財政再生計画改革工程表2020KPI関係】	－	－	2,437億円	2,460億円	2,580億円	2,363億円	3,000億円	日本国内での美術品取引の増加を把握するため、国内在住者による以下のチャンネルでの以下の商品（美術品）の取引額を目標として設定する。 ・画廊・ギャラリー、百貨店、アートフェア、美術品のオークション、ミュージアムショップ、インターネットサイト、作家からの直接の購入 ・美術品 日本画、洋画、彫刻、版画、現代美術、写真、映像作品、陶芸、工芸、書、掛軸・屏風 出典：日本のアート産業に関する市場レポート一般社団法人芸術と創造・一般社団法人アート東京調べ
	年度ごとの目標値	－	－	－	－	－		

達成手段 (開始年度)	関連する 指標	行政事業レビュー 番号	備考
『食文化あふれる国・日本』プロジェクト (令和2年度)	①②	新03-0016	—
芸術家等の活動基盤強化及び持続可能な活動 機会の創出 (令和2年度)	①②	新03-0017	—
芸術祭・芸術選奨 (昭和21年度)	①②	0360	—
我が国の文化芸術の創造力向上と国際的発信 (平成22年度)	①②	0359	—
国民文化祭 (昭和61年度)	①②	0361	—
全国高等学校総合文化祭 (昭和52年度)	①②	0362	—
日本映画の創造・振興プラン (平成15年度)	①②	0371	—
新進芸術家等の人材育成 (平成14年度)	①②③④	0373	—
国際文化交流・協力推進事業 (平成14年度)	①②	0378	—
国際芸術交流支援事業 (平成26年度)	①②	0379	—
文化功労者年金の支給に必要な経費 (昭和26年度)	①②	0337	—
劇場・音楽堂等機能強化推進事業 (平成25年度)	①②	0358	—
メディア芸術の創造・発信プラン (平成9年度)	①②	0372	—
東アジア文化交流推進プロジェクト (平成24年度)	①②	0374	—

文化芸術の海外発信拠点形成事業 (平成23年度)	①	0375	—
国際文化ネットワークの構築及び文化多様性の保護・促進への対応 (平成12年度)	①②	0376	—
芸術家・文化人等による日本文化発信・相互交流事業 (令和元年度)	①②	0377	—
我が国におけるアート・エコシステムの形成 (平成26年度)	④	0380	—
文化財の国際協力の推進 (昭和62年度)	①②	0399	—
大規模かつ質の高い文化芸術活動を核としたアートキャラバン (令和2年度)	①②	0366	コロナ対策関係
文化芸術収益力強化事業 (最先端技術を活用した鑑賞環境の改善と文化施設の収益力の強化) (令和2年度)	①②	0367	コロナ対策関係
文化芸術・スポーツ活動の継続支援 (令和2年度)	①②	0384	コロナ対策関係
文化芸術創造拠点形成進事業 (平成27年度)	①②	0363	—
昨年度事前分析表からの変更点	達成目標の進捗状況を適切に把握するため、測定指標の見直しを実施した。		

達成目標3	貴重な国民的財産である文化財を適切に保存し、次世代へ継承するとともに、積極的な公開・活用を通じて、広く国民が文化財に親しみ、その価値への理解を深めるようにする。						目標設定の考え方・根拠	「文化芸術推進基本計画（第1期）」の「第2 今後の文化芸術政策の目指すべき姿」にある「目標1 文化芸術の創造・発展・継承と教育」を踏まえ設定。
測定指標	基準値	実績値					目標値	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	H19年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
①近代（明治元年以降）の重要文化財（建造物）の件数	247件	337件	348件	358件	366件	380件	385件	文化財を適切に保存し、次世代へ継承することに関する指標として設定。文化財の中でも比較的新しい近代の文化財については、その価値が十分に認識されないまま失われつつある場合もあり、保護を図る必要があるが、特に建造物の分野については、平成8年に登録制度が導入されるなど保護施策を進めているところ。目標値については、平成19～23年度の年平均増加数（年10件）を後年度も維持することを目標に設定。 出典：文化庁「重要文化財（建造物）の指定について」
	年度ごとの目標値	335件	345件	355件	365件	375件		
測定指標	基準値	実績値					目標値	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	H19年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
②近代（明治元年以降）の登録有形文化財（建造物）の件数	5,739件	9,127件	9,625件	9,974件	10,339件	10,678件	10,675件	文化財を適切に保存し、次世代へ継承することに関する指標として設定。文化財の中でも比較的新しい近代の文化財については、その価値が十分に認識されないまま失われつつある場合もあり、保護を図る必要があるが、特に建造物の分野については、平成8年に登録制度が導入されるなど保護施策を進めているところ。目標値については、平成19～23年度の年平均増加数（年345件）を後年度も維持することを目標に設定。 出典：文化庁「文化審議会の答申（登録有形文化財（建造物）の登録）について」
	年度ごとの目標値	8,950件	9,295件	9,640件	9,985件	10,330件		
測定指標	基準値	実績値					目標値	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	—	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R4年度	
③直近一年で歴史的な建物や遺跡を直接鑑賞した人の割合	—	—	—	29.6%	26.6%	13.8%	18.9%	平成30年度より毎年実施している「文化に関する世論調査」において、「あなたは、この1年間に、コンサートや美術展、映画、歴史的な文化財の鑑賞、アートや音楽のフェスティバル等の文化芸術イベントを直接鑑賞したことはありますか」という質問に対し、「歴史的な建物や遺跡（建造物（社寺・城郭など）、遺跡、名勝地（庭園など）の文化財）」を選択した人の割合。広く国民が文化財に親しむ機会に関する指標として設定。過去の実績等を踏まえ、コロナ前の平均まで回復することを目標として設定。 出典：文化に関する世論調査報告書
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—		

測定指標	基準値	実績値					目標値	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	－	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R4年度	
④直近一年で歴史系の博物館、民俗系の博物館、資料館などを訪れた人の割合	－	－	－	22.7%	16.5%	7.7%	12.1%	平成30年度より毎年実施している「文化に関する世論調査」において、「あなたは、この1年間に、コンサートや美術展、映画、歴史的な文化財の鑑賞、アートや音楽のフェスティバル等の文化芸術イベントを直接鑑賞したことはありますか」という質問に対し、「歴史系の博物館、民俗系の博物館、資料館など」を直接鑑賞した文化芸術のジャンルとして選択した人の割合。広く国民が文化財に親しむ機会に関する指標として設定。過去の実績と新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた上で、令和元年度の実績値（16.5%）まで回復することを目標に、その中間目標として目標値を設定。 出典：文化に関する世論調査報告書
	年度ごとの目標値	－	－	－	－	－		
測定指標	基準値	実績値					目標値	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	R2年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
⑤文化遺産オンラインへの訪問回数（回）	3,079,909	1,715,976	1,884,600	2,042,900	2,401,600	3,079,909	3,430,000	「文化芸術推進基本計画（第1期）」（平成30年3月6日閣議決定）において、進捗状況を把握するための指標として規定されている。目標値については、直近5ヶ年の平均増加数（約35万回）を後年度も維持することを目標に設定。 出典：文化庁調べ
	年度ごとの目標値	1,555,555	1,666,666	1,777,777	1,888,888	1,999,999		
達成手段（開始年度）		関連する指標		行政事業レビュー番号		備考		
有形文化財（昭和54年度）		③④⑤		0386		－		
無形文化財（平成17年度）		⑤		0387		－		
文化財保護対策の検討等（昭和46年度）（再掲）		①②⑤		0388		－		
国宝・重要文化財等の買上げ（昭和25年度）		④		0392		－		
鑑賞・体験機会等充実のための事業推進（昭和47年度）		③④⑤		0389		－		
文化財管理及び保存活用等（昭和25年度）		③④⑤		0394		－		
地域文化財総合活用推進事業（平成25年度）		③④⑤		0397		－		
史跡等の買上げ（昭和32年度）		③⑤		0398		－		
平城及び飛鳥・藤原宮跡等の買上（昭和38年度）		③⑤		0400		－		

平城宮跡地等整備費 (昭和40年度)	③⑤	0401	—
文化財保護共通費 (昭和25年度)	①②	0385	—
模写模造 (昭和28年度)	④⑤	0393	—
世界遺産普及活用・推薦のための事業推進 (平成26年度)	⑤	0390	—
国宝・重要文化財等の保存整備等 (昭和25年度)	①②	0395	—
国産良質材使用推進・供給地活性化事業 (平成27年度)	④⑤	0396	—
アイヌ関連施策の推進 (平成9年度)	④	0391	—
コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業 (令和2年度)	④	0370	コロナ対策関係
地方税法 (昭和25年度)	①	—	国宝・重要文化財である家屋又はその敷地については、固定資産税及び都市計画税は課税されない。
地方税法 (平成8年度)	②	—	登録有形文化財の家屋に係る固定資産税及び都市計画税は、2分の1に軽減措置される。
登録有形文化財(建造物)事務担当者連絡会 (平成20年度)	②	—	地方公共団体において登録有形文化財建造物の保護行政に携わる者を対象として、登録制度の理解促進及び担当者間の情報共有を図る。
登録有形文化財建造物修理関係者等講習会 (平成22年度)	②	—	登録有形文化財建造物の調査や修理に関わる専門家、技術者及びその指導に当たる地方公共団体の登録有形文化財建造物担当者等に対して、必要な専門的事項について講習を行い、登録有形文化財建造物に係る諸問題に的確に対応できるように担当者等の資質の向上を期し、もって登録制度の普及と円滑な運営を図る。
租税特別措置法 (昭和47年度)	⑤	—	史跡、名勝、天然記念物及び重要文化財として指定された土地を国、地方公共団体、独立行政法人国立文化財機構・国立美術館、地方独立行政法人(博物館相当施設として指定された博物館又は植物園の設置・管理を主たる目的とするもの)に対する重要文化財・史跡名勝天然記念物として指定された土地を譲渡した場合の譲渡所得については、原則として、2,000万円まで特別控除又は損金算入される。
文化財行政講座 (昭和54年度)	①②	—	都道府県・市町村などにおいて文化財行政に携わる、原則として経験年数3年未満の者を対象に、職務の遂行に必要な基礎的な知識と実務上の課題について研修を行い、文化財の保存・活用の一層の推進を図る。
昨年度事前分析表からの変更点	達成目標の進捗状況を適切に把握するため、測定指標③と⑤の見直し及び新しい指標を新たに設定。		

達成目標4	国民の国語に関する意識と国語の現状を鑑みながら、国語の改善及びその普及を図る。						目標設定の考え方・根拠	「文化芸術推進基本計画（第1期）」（平成30年3月6日閣議決定）の「第2 今後の文化芸術政策の目指すべき姿」にある「目標1 文化芸術の創造・発展・継承と教育」を踏まえ設定。 なお、目標1には「言葉は、論理的思考力、想像力、表現力などの基盤」であると示されている。
測定指標	基準値	実績値					目標値	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	H13年度	H13年度	H20年度	H27年度	H29年度	R2年度	R2年度	
①「毎日使っている日本語を大切にしているか」という質問に対し、「大切にしている」と回答した者の割合	69.1%	69.1%	76.7%	78.5%	64.9%	73.9%	75.0%	【設定指標の理由】 文化芸術振興のためには、その担い手である国民や国内に居住する外国人など、日本語を用いる人々のコミュニケーションが活発になる必要がある。ここでは、国語の改善やその普及を確認するために設定したものである。過去4回分の経年調査の平均値よりも高い値の75%を目標値として設定。 【設定指標の根拠】 分子：「毎日使っている日本語を大切にしているか」という質問に対し、「大切にしている」と回答した者の数 分母：当該質問項目に対して回答した者の総数 出典：国語に関する世論調査
	年度ごとの目標値	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0		
達成手段（開始年度）		関連する指標		行政事業レビュー番号		備考		
国語施策の充実（昭和43年度）		①		0381		—		
外国人に対する日本語教育の推進（昭和42年度）		—		0382		—		
昨年度事前分析表からの変更点								

達成目標5	著作権等に関する理解が深まり、著作権の適切な保護と利用が促進される。						目標設定の 考え方・根拠	「文化芸術推進基本計画（第1期）」の「第2 今後の文化芸術政策の目指すべき姿」にある「目標1 文化芸術の創造・発展・継承と教育」を踏まえ設定。
測定指標	基準値	実績値					目標値	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	R1年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
①著作権教材に関するページのアクセス数	62,514	-	-	-	62,514	80,940	71,727	著作権法に関する理解促進の観点から、文化庁HPのうち、著作権教材に関するページのアクセス数を指標として設定した。基準値は現行HPが作成されたR1年度の実績値とし、過去3か年（R3は過去2か年）の実績値の平均数を目標としている。 出典：文化庁調べ
	年度ごとの 目標値	-	-	-	-	-		
測定指標	基準値	実績値					目標値	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	R3年度 (見込み)	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
②音楽権利情報検索ナビのアクセス数	1,371,523	-	-	-	-	-	1,488,102	著作物の利用促進の観点から、一般に広く利用される音楽に関する権利情報検索ナビのアクセス数を指標として設定した。今年度公開の新システムにつき、基準値及びR3目標値はR3年度の見込みアクセス数とし、R4年度以降は、前年度のアクセス件数に旧システムの過去3か年のアクセス平均増加率である8.5%を乗じた件数の増加を目標とする。 出典：一般社団法人音楽情報プラットフォーム協議会（MINC）調べ
	年度ごとの 目標値	-	-	-	-	-		
測定指標	基準値	実績値					目標値	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	R2年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
③著作権侵害事犯の検挙数	112件	238件	172件	169件	141件	112件	92件	著作権の適切な保護の観点から、著作権侵害事犯の検挙件数を指標として設定した。基準値は前年度の検挙数としつつ、過去3か年の平均減少値より下回ることを目標としている。 出典：警察庁調べ『令和2年における生活経済事犯の検挙状況等について』
	年度ごとの 目標値	-	-	-	-	-		
達成手段 (開始年度)	関連する 指標			行政事業レビュー 番号		備考		
著作権施策の推進 (昭和54年度)	①②③			0408		-		
昨年度事前分析表からの変更点	測定指標に、①著作権教材に関するページのアクセス数、②音楽権利情報検索ナビのアクセス数、③著作権侵害事犯の検挙数を新設した。							